

ワクチン・新規モダリティ研究開発事業（内閣府日本医療研究開発機構担当室）

令和3年度補正予算案 1,504.0億円

事業概要・目的

○ワクチンを国内で開発・生産出来る力を持つことは、国民の健康保持への寄与はもとより、外交や安全保障の観点からも極めて重要。緊急時の迅速な開発を念頭に、平時からワクチン開発に資する新規モダリティや感染症ワクチンの研究開発を推進。

○パンデミックの脅威に備え、有事に一刻も早くワクチンを国民に届けるため、ワクチン開発に資する革新的な新規モダリティや感染症ワクチンへの応用等の研究開発を実施。そのため、日本医療研究開発機構（AMED）に、平時からの研究開発を主導する体制（先進的研究開発戦略センター「SCARDA」）を設置し、一体的かつ機動的な予算の配分を実施。

事業イメージ・具体例

【ワクチン開発に資する新規モダリティの研究開発】

○SCARDAにおいて、新規モダリティの国内外の研究開発状況を把握・分析し、戦略的で弾力的な資金配分や、研究課題の適切なGo/No-Go判断を通じ、革新的な新規モダリティの研究開発を実施。

【感染症ワクチンの研究開発】

○革新的な新規モダリティについて、ワクチンへの応用研究や第Ⅱ相までの臨床試験のための研究開発を実施。パンデミックに備え臨床試験の経験を重ねるとともに、革新的なワクチンの早期実用化につなげる。

資金の流れ



期待される効果

○平時から新規モダリティを育成し、感染症ワクチンへの応用研究等を重ねることで、緊急時に速やかにワクチンが実用化され、国民にワクチンを早期に供給することを目指す。また、新規モダリティの育成に伴い、幅広い疾患ワクチンや治療薬等への展開も期待される。